

東建パブリニユース

平成29年3月8日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

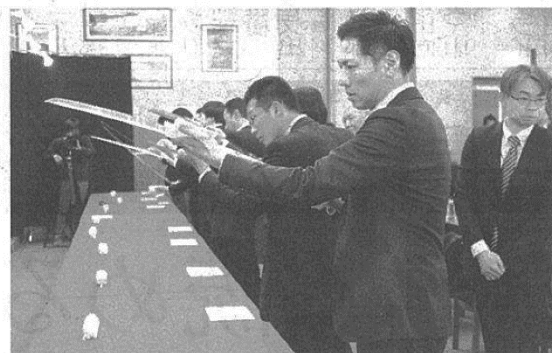
掲載

平成29年3月2日 日刊産業新聞 P. 5

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

【桑名】東建コーポレーションは2月28日、三重県桑名市の東建多度方ントリークラブ・名古屋で、社員を対象とした「刀剣講演会」を開催した。報道関係者にも公開し総勢約50人が出席、刀匠や美術館関係者などによる講演を聞くとともに、実物の刀剣を手に取り観賞するなど、刀剣に関する知識を学んだ。

東建コーポが刀剣講演会 実物手に取り、伝統美を鑑賞



本物の刀剣を手を持ち鑑賞

一般社会に広く浸透させ、後世に伝える試みとして、実際に刀剣を手に取り観賞し知識を学ぶ講演会の定期的な開催を計画中で、今回はその第一弾となる試み。

講演では、刀剣を扱う美術商である霜剣堂の村上一夫氏や、森記念秋水美術館事務長の山誠二郎学芸課長などが、基礎講座として刀と太刀の違いや各部の名称、刀剣の歴史と時代背景、名刀の条件、製造工程などから、観賞の作法やポイントなどを解説した。

また刀匠の川崎晶平氏は、刀匠となるまでの修業の様子や折り返し鍛錬など刀づくりの工程をビデオで流しながら説明し、「材料と鉄や砂鉄などがあり、刀匠が自分の作に合ったものを使う。同じ鉄を使っても出来上がる刀は同じにはならない」と解説。また、現代に刀をつくる理由を「刀は本来、御守り刀として魔を払うためのもの。現代は美術品としての価値も高い」と語るとともに、「現代の刀匠として刀をつくる技術を守り、今後も伝えていく必要がある。また、この日本の文化を支えていくのは皆さんでもある」として、日本刀の文化に対する理解も訴えた。

引き続き、平安時代から現代に至るまで各時代の太刀、刀の振りを実際に手に取り観賞。出席者は真剣な表情で、反りや波紋など生産地や時代ごとの特徴を味わった。

▲平成29年3月2日 日刊産業新聞 P. 5

以上